

【“「問い」の結像”演習シート】

「問いの芽」にまつわる風景をアンラーンして、新たな目で問い直す (A3用紙での印刷をおすすめします)

① 「問い」の芽： _____

② テーマ・事象：
(アンラーンする事柄)

◆ プロトタイプ (類型) 「～とはつまり」

◆ ステレオタイプ (典型) 「～と言えば」

③ _____

◆ アーキタイプ (原型) 「～とはそもそも」

④ テーマ・事象のアーキタイプ
(原型・起源)
・歴史・背景を調べる (起源・発生、経緯・変遷)

・語源を調べる

⑥ アーキタイプからの
連想
・起源をたどるなかで、連想したこと、発見したこと等

⑤ 自分の内面のアーキタイプ
(原型・起源)
・テーマにまつわる幼いころの思い出

・幼いころ、無性に好きだったもの、不思議で仕方なかったこと、やけに切なかったこと… など

⑦ 探究のための「問い」： _____

⑧ 新たに気になること： _____

- ① 探究型読書で導かれた「最も心を掴まれた問い」をベースに置きます。(疑問形のセンテンスで)
- ② その問いの芽の中心となるテーマや事象を抜き出します。これは何についての問いか？
- ③ 「略図的原型」でテーマ・事象を捉え直します。「プロトタイプ」は辞書的な説明、「ステレオタイプ」はそれを象徴する典型的なもの。
例) コンビニのプロトタイプは「日用品の小型スーパーマーケット」、ステレオタイプは「セブン-イレブン、ローソンなど」、といった具合になります。
- ④ 歴史を遡って、テーマ・事象の「はじまり」や今にいたるまでの変遷を見ていきます。語源を調べるのも有効です。
- ⑤ 幼いころの記憶をたどって、なぜこの問いに興味を引かれるのかを探ります。テーマと直接関係する思い出でもいいですし、幼いころのこだわりや原体験から問いへの関連性を見つけてもいいです。
- ⑥ ④と⑤を考えるなかで、①の段階では見えていなかった風景が現れることと思います。印象的なことを自由に書き留めましょう。
- ⑦ 以上のプロセスを経て、改めて探究したい「問い」を言葉にします。じっくり問いにたどり着かなければ、①や②を変えながら、何度でもこのプロセスを通るといいでしょう。
- ⑧ うまく問いが結像すると、新しい世界が目前に広がり、次々と気になることが出てくるはず。自由に書き留めておきましょう。